

伊都キャンパスの生活状況等に関するアンケート結果の概要

平成30年2月
九州大学キャンパス計画室
福利厚生施設WG

1. 調査の目的

伊都キャンパスでの学生生活に関する意向調査を実施し、その結果を基にして、伊都キャンパスにおける学生生活支援施設（食堂・課外活動施設等）の運営及び学生寄宿舍の整備等への活用並びに周辺地域での学生用宿舍の建設促進を図るためにアンケートを実施するもの。

2. 調査対象

伊都キャンパスに通学する学生 約9,500名

- ・学部1年生
- ・理学部、工学部及び21世紀プログラム課程の2年次以上の学生（工学部建築学科を除く）
- ・比較社会文化学府、地球社会統合科学府、理学府、数理学府、システム生命科学府、工学府、システム情報科学府及び統合新領域の大学院生

3. 調査期間

平成29年10月30日～平成29年12月11日

4. 調査方法

学生ポータルシステム、掲示等にてアンケートの周知・協力依頼を行い、対象学生自身が九州大学eラーニングシステム(moodle)にアクセスし、Web上でアンケートに回答。

5. 回答結果

- (1) 回答数 872人（回答率9.2%）
- (2) 回答者の所属 学部学生 757人（86.8%） 修士課程 76人（8.7%）
博士課程 37人（4.2%） その他 2人（0.2%）
- (3) 回答者の性別 男性 577名（70.4%） 女性 295名（29.6%）

6. アンケート回答結果の概要

(1) 通学について

① 通常時の通学方法は、自転車が1番多く35.0% (昨年度:31.6%)、次いで徒歩のみ16.3% (昨年度:15.0%)、バイク12.4% (昨年度:13.4%)、昭和バスのみ8.1% (昨年度:12.8%)の順となっており、昨年度に引き続き自転車と徒歩の割合が高まった。伊都キャンパス近郊に住んでいる学生の割合が年々高まっていることが要因として考えられる。

また、雨天時の通学方法は、徒歩のみ25.6% (昨年度:23.3%)、昭和バスのみ22.0% (昨年度:29.4%)の順となり、自転車8.4% (昨年度:6.5%)、バイク8.0% (昨年度:7.9%)の割合は低かった。通学にバスを利用する割合は、通常時は28.6% (昨年度:32.4%)、雨天時は49.7% (昨年度:54.6%)であり、いずれも昨年度より割合が低くなったが、雨天時は通常時の約1.7倍 (昨年度:約1.7倍)で昨年度と変わらない。

② 伊都キャンパスへの通学に際し、利便性を向上させるための希望として、「鉄軌道の導入19.2% (昨年度:19.6%)」が1番多く、次いで「夜遅くまでのバス運行18.1% (昨年度:18.1%)」、「土日祝日におけるバスの増便等の充実16.6% (昨年度:17.2%)」、「平日におけるバスの増便等の充実16.3% (昨年度:16.6%)」となっており、昨年度と同様の結果となった。

③ 年間を通じての平均的な登校時間帯は、1限目開始前である8:00~8:40が最も多く48.3% (昨年度:44.7%)、次いで、8:40~10:00が23.1% (昨年度:25.7%)、10:00~10:30が13.1% (昨年度:12.9%)と続き、約95%の学生が2時限目開始前に登校している。

また、平均的な下校時間帯は、4限目終了後である16:20~17:00が最も多く33.8% (昨年度:32.0%)、次いで、19:00~21:00が15.6% (昨年度:17.0%)であるが、その他はサークル活動や研究・実験終了後の17:00~22:00の間に分散している。

(2) 住居について

① 現住所については、元浜・九大新町15.6% (昨年度:11.8%)及びドミトリー・協奏館12.3% (昨年度:12.6%)と伊都キャンパス近郊に住んでいる学生が27.9%で最も多くなってきた。昨年度に元浜・九大新町に多くの住宅が建設され、今年度から居住する学生が増加したことによるものと考えられる。また、昨年度最も多かった九大学研都市駅周辺15.0% (昨年度:20.0%)の割合が減少し、次いで、周船寺駅周辺12.7% (昨年度:12.2%)となっている。これらの地域を含めれば、伊都キャンパス近郊に住んでいる学生が半数以上で割合が高まっている。伊都キャンパスの一方、箱崎キャンパスのある東区から通学し

ている学生は4.0%（昨年度:3.4%）であり、昨年度と同程度であった。

② アパート・マンションの決定にあたっては、家賃16.0%（昨年度:18.5%）を重視する回答が一番多く、次いで、インターネット設備11.7%（昨年度:11.9%）、バス・トイレの別11.3%（昨年度:11.9%）、広さ10.9%（昨年度:11.5%）と続き、昨年度と大きく変わらなかった。

③ 自宅周辺に必要な施設としては、スーパー18.1%（昨年度:18.3%）が一番多く、次いで、飲食店12.4%（昨年度:12.5%）、銀行・郵便局10.6%（昨年度:10.0%）、コンビニ10.0%（昨年度:9.7%）と続き、生活面での利便性が重視されている。

④ 居住地の周辺環境については、およそ半数（49.0%）が満足しており（昨年度:50.4%）、理由としては、スーパー・コンビニの近さ、交通の便、大学に近いなどがあげられている。

（3）キャンパスでの生活について

① 朝食については、自宅で食べるが57.0%（昨年度:56.4%）と最も多く、昼食については、大学内の食堂が69.6%と最も多い。また、夕食については、自宅で食べるが51.6%（昨年度:54.2%）と最も多い。

② 伊都キャンパスとその周辺の施設に「不満である」及び「非常に不満である」の割合が55.6%（昨年度:58.6%）であり、今後のキャンパス整備や周辺まちづくりにより、満足度を高めることが課題である。

④ キャンパス内に必要な施設については、「休憩したり友人達と談笑できる場所」が24.8%（昨年度:24.0%）が最も多く、「駐輪場や駐車場」が22.7%（昨年度:23.1%）、「気軽に体を動かせる場所」17.8%（昨年度:19.5%）であった。

⑤ キャンパス周辺に必要な施設については、「スーパー」が18.2%（昨年度:18.7%）と最も多く、次いで「飲食店」が14.7%（昨年度:15.0%）、「娯楽施設」が10.7%（昨年度:10.5%）であった。

⑥ 課外活動の場所は、伊都キャンパス及び周辺が51.6%（昨年度:48.4%）で最も多く、アルバイトの場所は、福岡市西区が27.0%（昨年度:24.5%）で最も多く、次いで福岡市中央区13.7%（昨年度:10.8%）であった。

(4) その他の意見（自由記載欄）について

- ① 記載された全ての意見を「交通」「学内施設」「周辺環境」「その他」に分類した結果、「交通」が42.0%、「学内施設」が33.5%、「周辺環境」が19.2%、「その他」が5.3%であった。
- ② 「交通」については、運賃を安くしてほしい等の運賃に関する意見が最も多く、バスの運行本数を増やしてほしい等の運行本数に関する意見や、夜遅くにバスを運行してほしい等の運行時間帯に関する意見が多かった。
- ③ 「学内施設」については、課外活動施設を整備してほしい等の課外活動施設に関する意見が最も多く、「周辺環境」については、伊都キャンパスの近くにスーパーを誘致してほしい等のスーパーに関する意見が最も多かった。

自由記入欄には、296名（回答者の33.9%）の学生からたくさんの意見をいただきました。伊都キャンパスでの学生生活がより良いものになるように、いただいた意見をしっかりと受け止めて、今後の取組みに活用したいと思います。

交通については、昭和バスや西鉄バス、糸島市コミュニティバスの各事業者と協議して、バス運行の改善に取り組んでいるところです。今年度は「学園通線」経由のバスを新たに運行し、九大学研都市駅と伊都キャンパスの間の所要時間が短縮されました。来年度の統合移転完了に合わせて、イーストゾーンへのバスの乗り入れや、バスの増便を計画しています。

学内施設の中で意見の多かった課外活動施設については、平成28年度に洋弓場を整備し、平成29年度には小体育館やトレーニング施設の整備、弓道場の増設を行っています。今後も、屋内プールや課外活動用倉庫等の整備が計画されており、移転の状況や要望等を踏まえ、課外活動施設の整備を検討します。

周辺環境については、昨年度に引き続き、伊都キャンパスの近くにスーパーを誘致してほしいとの意見を多くいただきました。キャンパス周辺の関連団体とのまちづくりの取組みを通じて、スーパーの立地要望を伝えるなどの取組みを進めていきます。